



豊かで 住みよい 町づくり

VoL.
43

議会だより

2011. 11. 1 発行

上 勝

9 月定例会

- 4P 一般質問 **5名が町政について質問**
- 9P 委員会報告 **学 校 訪 問**
- 10P 研修報告 **松川地熱発電所視察**
- 11P 研修報告 **4 年目の100人委員会**
- 12P 写真で紹介 **まちのようす**



平成22年度 決算認定

歳入

総額	45億1,543万3千円
一般会計	34億3,486万2千円
特別会計	10億7,889万1千円
奨学資金会計	168万円

前年度より約4億7,600万円の増加
内訳は町税が1,900万円、地方交付税が1億3,000万円、寄附金が1,300万円、
国県支出金が4,200万円など

歳出

総額	41億6,263万2千円
一般会計	32億4,701万2千円
特別会計	9億1,562万円
奨学資金会計	168万円

前年度より総額約5億5,000万円の増加
内訳は扶助費2,800万円、積立金2億3,000万円、普通建設費2億5,000万円、
公債費2,000万円、繰出金1,800万円など

平成23年度 補正予算

専決補正予算 第2号	100万円	（株）上勝バイオのホダ木・オガ粉を福島県に送り返す費用2,000万円の内100万円を補正、残り1,900万円は財政調整基金を流用
補正 第3号	2億4,750万5千円	主な内訳は、財政調整基金積立7,500万円 ふるさと創生人材育成事業積立1,000万円 など
追加補正 第4号	4,400万円	（株）上勝バイオのホダ木購入
計	2億9,250万5千円	
国民健康保険税（事業勘定）	495万2千円	
国民健康保険税（診療施設勘定）	51万2千円	

議員自らの発案で、作成・提案により 議会倫理条例・議会基本条例を制定する

（平成23年10月1日より施行）

議員の2親等以内の親族が経営に携わっている法人は、町が行う
工事等の請負契約の辞退届けを提出しなければならない、などの
内容を盛り込んでいる。

第4回 定例会

開 会	開 会	会 期
平 成 23 年 9 月 28 日	平 成 23 年 9 月 13 日	16 日

主な議題

専 決	平成23年度一般会計補正予算第2号 （株）上勝バイオ福島産ホダ木・オガ粉 の返還費措置 6対1で承認
契 約	物品購入の締結 町営バス2台 6対1で可決
条 例	税条例の一部改正 全員異議なく可決
認 定	平成22年度一般会計歳入歳出決算 5対2で可決 平成22年度国民健康保険（事業勘定） 特別会計歳入歳出決算 6対1で可決 それ以外の平成22年度特別会計 歳入歳出決算11議案 全員異議なく可決

補 正

補 正	平成23年度一般会計補正予算 第3号 全員異議なく可決 平成23年度国民健康保険（事業勘定） （診療施設勘定）特別会計補正予算 全員異議なく可決
報 告	平成23年度一般会計追加補正予算第4号 （株）上勝バイオのホダ木購入費措置 5対2で可決
発 議	平成22年度の決算に基づく健全化 判断比率及び資金不足比率について いずれも健全比率内、資金不足に なっていない 寄附の申し立て 7件 上勝町議会政治倫理条例の制定につ いて 全員異議なく可決 上勝町議会基本条例の制定について 全員異議なく可決

主な討議

平成23年度一般会計 補正予算 第4号

反 対

風評被害に名を借りた赤字、バイ
オの延命だ。従業員のためと言う
が経営形態を変えないと成り立た
ない。整理する方向で、直ちに始
めなければならない。

賛 成

上勝バイオだけの問題でなく、上
勝町の農産物、それから福島県下
の農産物の販売にも影響をしてい
たと思っている。その点を未然に
防ぐことができた。

反 対

見込みのない会社を無理やり存続
させることで、町のほかの雇用の
可能性を閉ざしている。これ以上
補てんが続くと後に大きな災いが
残る。

賛 成

原発事故に伴うホダ木・オガ粉を
送り返した補てんに限定したもの、
ホダ木の購入であり、経営資金で
ないということで賛成する。



明 本 恵 一 議員

町政のひずみをただす 防災について

答 建設課長

上北山村のような4日間で1,700ミリの豪雨が降れば、未曾有の災害が起こる危険がある。

問

紀伊半島では、12号台風で山津波と、堰止め湖が出来、大災害となった。上勝町ではこのような深層崩壊の心配はないか。

答 総務課長

IRU契約があるので、平成27年まで交渉はできない。

問

今年度から通信と放送は完全に分離された。テレビだけの人は安く加入でき、実費として1,000円程度に出来る。速やかに実施すべきではないか。

ケーブルテレビ について

問

原料のオガ粉購入先を福島、石川と二度も変更し、莫大な損失を招いた、町長の指導責任を問う。

答 町長

バイオ役員の放射能風評被害に対する判断が甘かった。購入資金が不足していたのも原因。5月に強力に指導し、資金の手当てが出来ておれば大事とならなかった。責任は非常に重く、深く反省している。

問

2,200万円の福島産オガ粉返送料、全部町費負担ではないか。これを株式会社

上勝バイオ 新たな経営危機に どう対処

答 町長

本来、株式会社の費用を町が負担すると云うことはおかしいが、風評被害防止上やむなく専決し執行した。町に返還は出来ない。

問

従業員の被爆線量は推定いくらか。健康に問題ないか。

答 産業課参事

192マイクロシーベルトであり、健康には問題はない。



片 山 文 昭 議員

一 般 質 問

町政を問う

9月定例会の一般質問には5人が質問しました。

再生エネルギーの 利用促進でCO₂削減を

大川原高原の風力発電施設の 償却資産税の収入は

問

大川原高原に建設されている風力発電施設は、上勝町に何基設置されていて償却資産税の収入は幾らあったのか。

答 税務課長

全体で15基あり、本町には3基設置されていて、償却資産税は平成22年度が905万9,900円、平成23年度が790万9,600円の収入があった。

問

平成23年度以降、何年収入が見込めるのか。

答 税務課長

償却資産税は、年々減少するため、あくまで予測であるが、平成24年度より平成30年度までに約3,300万円の収入が見込める。

問

財源を、風力発電施設からの償却資産税を原資として、住民が設置する再生エネルギー発電設置事業の補助財源として活用しては。

答 町長

国の買い取り価格が決まってから、具体的に検討していきたい。

上勝診療所の運営方針は

問

薬の処方箋が院外薬局になったが、赤字運営にはならないのか。

答 住民課長

経営は厳しくなるが、赤字経営になるかどうかは患者数の状況による。

問

訪問看護を実施すると言っていたが実施しているのか。

答 住民課長

8月下旬から実施している。9月現在3名に週3回実施している。



徳島上那賀線田野々より 八重地間の改良計画は

問

田野々より八重地間の1.5車線化の工事とこれからの計画は。

答 町長

現在地形測量をもとに道路の線形計画の検討とボーリングによる地質調査業務も行っている。国の交付金事業と県単事業の2つの予算により改良工事を進めていたいただける。

早期完成するよう予算枠の確保につとめる。

正木トンネルの開通式には、藤川、福川、柳谷の皆さんには餅投げ等大変お世話になりました。ありがとうございます。

問

上勝町から那賀町へのトンネル計画

答 町長

高知県側と連絡を取りトンネル構想を具体的に実現化していきたい。

高校生までの 医療費無償化を

問

上勝町に住み、高校に通う生徒は多くの出費を伴い、教育の機会均等が害されている。来年度から医療費を無料化してどうか。その費用は推定いくらか。

答 住民課長

年間費用は推定130万円。近隣自治体との均衡、財政状況からして、今すぐにはできない。子育て支援として有効な手段ではあると考える。



渡部 厚子 議員

渡 部

教育長

給食は放射能フリー？

セシウムは検出されていない

問 給食のことで保護者から不安の声は上がっていないか。

答 教育長 青果物は町内産、県内産優先、牛肉は宮城県産牛の個体識別番号と照合、現実には県内処理の肉類を使用。
牛乳は100%徳島県産、8月8日の県の調査では放射能は検出されていない。

問 外部被爆よりも食べ物からの内部被爆の方が影響が大きいので、今後も注意してほしい。
乳牛の飼料はどこから来ているのか。

答 教育長 飼料についての情報はない。
今後、産地調査を続け、情報収集にも努めていきたい。

答 産業課長 被害農家からの申告がなければデータ上は被害がなかったことになる。
猿が登りにくい柵か、モンキードッグなど追い払い、次に捕獲があるが猿のことを勉強してから対策を行う必要がある。

問 猿被害はどれくらいあるか。対策は。

答 産業課長

問 申告がなくても被害があるのは分かっているのだから一歩先に対策を検討してほしい。

答 産業課長 県の勉強会も始めているのでそれに基づいて研究していきたい。

蔵書は増えたが図書館は？

問 交付金事業で図書備品は充実したが、利用者は増えたか。

答 教育長 貸出金事業で図書貸出利用者は昨年度は延べ80人、貸出は100冊ほど本の置いてある部屋は図書室ではない。

問 蔵書の持ち腐れにならないよう使いやすい施設にする必要があると思うが。

答 町長 町民からも図書館設置の要望があり、振興計画に盛り込まれてもいる。具体的に検討していきたい。

Iターン就農者はがんばっている

問 様々な訓練生から就農者が多くできた。その人達への助けはあるか。

答 産業課長 低利の資金、就農支援資金などが国に、町でも事業に助成する制度がある。相談に来てくれれば一緒に検討していきたい。

給水施設の整備について

問 瀬津地区の給水施設整備基本計画案はどうなっているか。

答 建設課長 府殿地区は鷹飼野用水を水源とし、既設の配管を使用する。
中瀬津地区の1案は、既設水源を使う。2案は水源を上流に移す。
高畑地区の1案は、榎地谷を水源とする。2案は西簡易水の区域拡張で対応する。

問 今後どのように進めていくか。

答 建設課長 地元と協議調整しながら、有利な補助事業を模索していく。

活力ある町づくりを 目ざして

交流人口を増やす
為に

問 スーパー林道沿いにある景勝地を整備してはどうか。

答 町長 集落再生プロジェクトで取り組んでほしい。そして町がやるべき事、県にお願いする事、近隣町村と広域連携で取り組みなど考えていきたい。

問 農村民宿、民泊に支援をしてはどうか。

答 産業課長 ソフト面についてはNPO法人郷の元気が指導を行っている。

答 町長 中学生の修学旅行の受け入れ予定もある中で、ハード面についても公平性を含めて検討する。

第27回国民文化祭は

問 来年度第27回国民文化祭はどのような取り組みでいくか。

答 産業課長 前回の継承であり、修復活動とワークショップを考えている。

問 瀬津地区の作品を完成させてはどうか。

答 産業課長 来年の国民文化祭までには、作品の完成は無理である。



百間滝入口



貸出図書設置室

委員会報告

総務常任委員会

学校訪問

平成23年 7 月 6 日



小学校

各学年の授業参観のあとに校長先生方と意見交換し、要望事項があり、要望があった「天井扇については9月議会補正予算で可決しました。」



彩保育園

高橋園長より、園の現状等について説明がありました。又、お世話になっている四国大学・田村教授からお話をいただきました。



給食センター

青木栄養教諭より給食状況について説明がありました。



中学校

給食後、5校時・6校時各学年の公開授業参観、全体会で校長先生、各先生方から生徒状況等説明があり、要望事項は2件ありました。



上勝 あすなろクラブ

酒井指導員より現状説明がありました。子供達が元気にワイワイガヤガヤと和気あいあいに走り回っていました。



非常食を各集会所で備蓄しては

鹿 島

コミセンで集中管理したほうが有効

総務課長



鹿島國男 議員

問 災害時の通信手段に防災無線のトランシーバーを副分団長にも配布しては。

答 総務課長 町の行政防災無線の移動系は、各分団の車両と分団長、福原は副分団長にも渡している。各分団には検討したい。

問 非常食やオムツ、生理用品、粉ミルクなどは。

答 総務課長 非常食は500食、生理用品、粉ミルクは備蓄していない。

問 婚活について現状と今後の取組は。

答 教育長 NPO法人「郷の元気」主催「棚田で婚活」を実施。1組のカップルが成立したが結婚には至っていない。仲人サポーターを募集したら10数人の申し込みがあったので、今後いろいろな会を、立ち上げて取り組んでいきたい。



藤川橋東詰交差点

広域農道は

問

広域農道の進捗率と未完成の場所は。

答 建設課長 昭和60年に着手し26年経過している。当時は幅員6メートルで工事、平成16年から幅員4メートルに縮小、進捗率は84・2%。未完区は、1工区は、傍示鹿子山の荒木宅前から谷内谷の渡り詰までの609メートル。2工区は、藤川西中の鎌田宅上から西中の旧安堵屋敷下までの223メートル。3工区は、藤川の元山槻地線分岐から関ヶ谷の渡り詰までの177メートル。合計1,009メートル。完成時期は未定。

問 正木トンネルと藤川橋の間の十字路で、高鉾公民館や旧県道からトンネルに出る時に出づらいが。

答 建設課長 交通安全協会高鉾分会より話があり、今後、県とともに検討していきたい。

問 彩や香酸柑橘の苗木の補助を一律にしている。

答 産業課長 認定農業者（やる気を起こして計画の達成を見込める人）は80%の補助がある。今後、これまで通りで行く。認定農業者になるには、産業課まで問い合わせを。

問 若者が夢を持って、生活できるような環境を整備しては。

答 産業課長 新しい公共の事業の中で、地・職・住推進機構の設立を目指し、新しい雇用の場として期待している。その他、今年度限りだが、緊急雇用、ふるさと雇用を実施している。又、上勝町雇用推進事業にも取り組んでいる。

総務常任委員会

松川地熱発電所視察

岩手県松尾村

平成23年7月27日

岩手県松尾村にある松川地熱発電所は、発電出力2万3,500kw、昭和41年10月8日に運転を開始した、日本で初めての地熱発電所である。ここ松川は蒸気だけが噴出するため蒸気を作るための燃料が要らず、発電する際に排出される炭酸ガスも火力の1/20〜1/200で環境にやさしく、また再生可能でもある貴重な国産エネルギーで、発電のほか、温水を造成して地元へ供給している。東日本大震災のあと、視察者が3倍に増えたとのこと、本町もエコバレー推進事業で、再生可能エネルギーの事業に取り組んでいく。

(鹿島)



地熱発電所

3月11日発生した、東日本大震災から4ヶ月後に現場を初めて見て、地震津波の被害がこんなに大きな事にびっくりした。主要な道路は応急処置で通行できたが、至る所にガレキの山、大小を問わず無惨な姿で残る家々、辺り一面が廃墟となっていた。市街地では商店がところどころで店を開けていたが、無傷の店はない。市街地を過ぎ、途中の山の中に2〜3トン級の船が津波で流されていた。鉄道も寸断され、小さな駅もなくなり民家も流されていた。全国各地からの支援車両が、ガレキを積んで処理場に運んでいた。

7月29日、気仙沼市、塩釜市、仙台市街地は平常な状態だったが、市街地を離れると仙台平野が倒木等で水田を埋めており、小学校跡はガレキ置場になり、塩釜松島遊覧船発着所には通常なら平日でも観光バスが7〜8台来ていたが、震災後はない。港も震災で傷んでいた。仙台空港へ高速道路を通行中、左右の風景が緑と茶色に別れている感じがした。実際に現地を見て、これから長期間に渡る復興へ向かって私達も支援つかれないように頑張っていく気持ちです。

(阪松)



気仙沼市

東日本大震災現地を見て

宮城県気仙沼市・石巻市

平成23年7月28〜29日

議会運営委員会

4年目の100人委員会

鳥取県智頭町

平成23年8月18日

「日本で最も美しい村」の一員でもある智頭町、人口8,000人の林業の町だが、100人委員会では日本中に名を知られた。100人委員会は、100人の町民がそれぞれ商工・観光・農林業・生活環境・教育・文化・福祉の6つの部会の委員となり、企画を立て、予算を組んで要求し、自分達で事業を実施する。我が町のいっきゅう運動会を拡大したような会だ。会も発足して4年目となり成果が上がってきた。

例えば、米作りで国際交流、休耕田に米を作ってアフリカに送るといふ、若いおおかあさんの夢が実現した。

木の宿場、町民が山から出した間伐材を町が半分補助して、トン6,000円で買い取り、チップ材とする。支払いは地域通貨「杉小丸」でされ、それが町内でくり返し使われている。

森の保育園、既存の保育園でなく、毎日森へ歩いて出かける建物のない保育園である。無認可の保育園となるため町が人件費を出している。この子供達が小学生となり、差がはつきりと出た。骨格が強い、問題解決能力が高い、コミュニケーションがうまい。既存の保育園も月に一回森へ出かけることになった。この6月から県も一部補助を出すようになった。

その他の様々な企画も委員会はどんどん進めている。

100人委員会以外にも、0分の1村おこしという地区密着型のプロジェクトもあり、新田地区は集落全体がNPOになった。

町外向けには疎開保険を発行して加入金1人年1万円で、地震災害の折には7日間3食付で受け入れをする。現在120人が加入しているそうだ。次々とユニークな取り組みを仕掛ける智頭町、目が離せない。(渡部)

議会基本条例制定経緯

鳥取県北栄町

平成23年8月19日

大栄庁舎で議会基本条例制定までの経緯等について北栄町議会議長池田氏、議会運営委員長阪本氏より説明がありました。意見交換で本町の基本条例も北栄町の条例を参考に研究した旨を伝えました。北栄町では条例は平成21年3月に可決し、4月1日から施行する。条例は議会改革、活性化の必要性が主な内容であるとの事でした。

議会改革度調査2010年総合ランキング21位である。又、北栄町の出身で名探偵コナンの作者である青山剛昌氏のデザインによるTシャツを役場職員全員が着用して町の宣伝に一役かっている。(阪松)



写真で紹介 まちのようす



シニアカー講習会（正木）



上勝中学校祭



上勝町敬老式典（コミュニティーセンター）



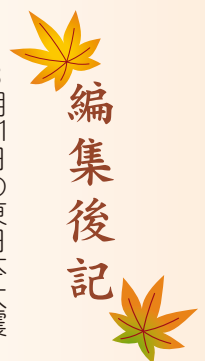
カラスの檻（正木）



旧教員宿舎改築工事（正木）



秋の交通安全運動（福川）



編集後記

3月11日の東日本大震災・集中豪雨・台風12号・15号等による災害と非常に暗いニュースの中、正木ダム完成後34年を経過したが、正木トンネルが開通し藤川橋から1分で福川まで通過できるようになりました。用地・県・町等関係者に心より感謝いたします。先人達が計画して努力を重ねた結果です。

これからも私達が子供や孫に何が残せるか、先人に負けないよう、今進めている集落再生事業で美しい棚田の保全や持続可能な集落を作り、安全・安心して住める町をつくらせていきます。（片山）